

# おかげさまで十年 ~新しいスタートを会員皆様のご参加で~

上田高校同窓会中南信支部が設立され、十年になりました。一重に会員皆様のご協力の賜ものです。この間の主な活動内容を改めてご紹介し、新しいスタートとなる第十一回総会の御案内をさせていただきます。

この間(十回)の延べ参加会員は単純延べ人員で三七一名、純粋延べ人員で二一九名となり平均三五・四五名の会員参加の催しとなっております。

回を重ねるに従い総会の内容も工夫し第三回総会(平成八年)から会員を講師にその時の話題演目を中心に都合九名の方に講演いただきました。いずれもご好評をいただき今後さらさらに充実させたい所存です。

また第六回(平成十一年)からは会報を独自に発行し、今回は第五号の発行となります。手作りの良さを生かし、会員相互の情報交換に役立っていると自負しております。特に会報の題字につきましては松岡翠風(仁太郎)氏(三九期)に、またカットにつきましては武村洋治氏(五八期)に、刊よりご協力をいただき会報のシンボルとして皆さんにお届けしております。

会員動向も都度お伝えしておりますが、設立役員でもありました船田智理氏(五一期)飯島俊夫氏(六二期)の両氏は不幸にして逝去され、ただただご冥福を祈るしだいです。又第八回にご講演をいただいた菅谷昭氏(六十

期)はこの三月の松本市長選で現職候補を破り当選、現在松本市長として活躍されています。

同窓会は、多感なまた無限の夢を固めつつある未熟ながら覇気に満ちた青春期に、互いに意識し刺激し合い、かつおなじ文化雰囲気を年齢を横断して共有する絆の会です。いわば長幼を縦糸に共通価値体験を横糸にした綾織のような組織です。小林支部長が設立総会で述べられた「誰でも、気軽に、楽しく」をモットーに

さらに内容の充実をはかり運営をしていく所存です。同じ長野県内でも郷里から北信よりは少し遠く関東、関西よりは望郷の想いは薄き状況のなかで独自の同窓会文化を皆さんと培っていきたいとおもいます。

本年の十一回総会に多くの会員のご参加を得、交流の場になればと念じており心よりご参加をお待ちしております。

幹事長 久保田信二(六一期)

昨年(十回)の延べ参加会員は単純延べ人員で三七一名、純粋延べ人員で二一九名となり平均三五・四五名の会員参加の催しとなっております。

回を重ねるに従い総会の内容も工夫し第三回総会(平成八年)から会員を講師にその時の話題演目を中心に都合九名の方に講演いただきました。いずれもご好評をいただき今後さらさらに充実させたい所存です。

また第六回(平成十一年)からは会報を独自に発行し、今回は第五号の発行となります。手作りの良さを生かし、会員相互の情報交換に役立っていると自負しております。特に会報の題字につきましては松岡翠風(仁太郎)氏(三九期)に、またカットにつきましては武村洋治氏(五八期)に、刊よりご協力をいただき会報のシンボルとして皆さんにお届けしております。

会員動向も都度お伝えしておりますが、設立役員でもありました船田智理氏(五一期)飯島俊夫氏(六二期)の両氏は不幸にして逝去され、ただただご冥福を祈るしだいです。又第八回にご講演をいただいた菅谷昭氏(六十

期)はこの三月の松本市長選で現職候補を破り当選、現在松本市長として活躍されています。

同窓会は、多感なまた無限の夢を固めつつある未熟ながら覇気に満ちた青春期に、互いに意識し刺激し合い、かつおなじ文化雰囲気を年齢を横断して共有する絆の会です。いわば長幼を縦糸に共通価値体験を横糸にした綾織のような組織です。小林支部長が設立総会で述べられた「誰でも、気軽に、楽しく」をモットーに

さらに内容の充実をはかり運営をしていく所存です。同じ長野県内でも郷里から北信よりは少し遠く関東、関西よりは望郷の想いは薄き状況のなかで独自の同窓会文化を皆さんと培っていきたいとおもいます。

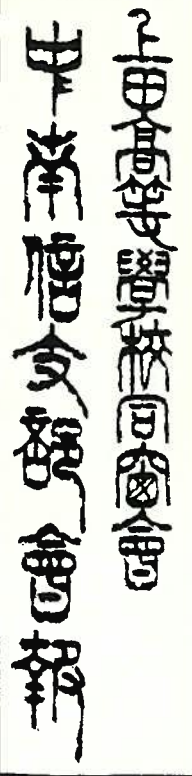
本年の十一回総会に多くの会員のご参加を得、交流の場になればと念じており心よりご参加をお待ちしております。

幹事長 久保田信二(六一期)

さらに内容の充実をはかり運営をしていく所存です。同じ長野県内でも郷里から北信よりは少し遠く関東、関西よりは望郷の想いは薄き状況のなかで独自の同窓会文化を皆さんと培っていきたいとおもいます。

本年の十一回総会に多くの会員のご参加を得、交流の場になればと念じており心よりご参加をお待ちしております。

幹事長 久保田信二(六一期)



発行人: 小林茂昭  
 上田高等学校同窓会  
 中南信支部事務局  
 連絡先: 0263-85-1599  
 題字: 松岡翠風(仁太郎)  
 南安曇在住(39期)  
 全日展書法会副会長  
 公券「全日展」特別  
 選考審査員 他



昨年の懇親会風景

さらに内容の充実をはかり運営をしていく所存です。同じ長野県内でも郷里から北信よりは少し遠く関東、関西よりは望郷の想いは薄き状況のなかで独自の同窓会文化を皆さんと培っていきたいとおもいます。

本年の十一回総会に多くの会員のご参加を得、交流の場になればと念じており心よりご参加をお待ちしております。

幹事長 久保田信二(六一期)

## ~創立10周年記念総会(第11回)のご案内~

**日時: 10月30日(土) 開場13:30、**  
**場所: 松本ホテル花月 松本市大手4-8-9 電話0263-32-0114(次頁の地図参照)**  
**次第: 14:00~15:45 第一部 総会・記念講演**  
**16:00~18:00 第二部 懇親会**  
**会費: 8,000円(通信費含)、第一部のみは1,000円**

### 記念講演: 金子万平さん(58期) フリーライター 『東京のそば 信州のそば 脱線話』



41年 4月26日小県郡殿城村(現在:上田市殿城)生まれ。  
 57年 豊殿中卒 (ホーデン・ドイツ語の意味おわかりですね)  
 60年 上田高卒、東大文科Ⅱ類へ(ストレートということです)  
 67年 東大卒業 7年間何をやっていましたか?

卒業後雑誌の編集、市場調査会社等に勤務。学生時代を含め10年間の東京生活。東京がつまらなく感じて 長野へ。以後、フリーランスとして活動。現在に至る。上田平のよく見える田舎の中学から上田の高校へ、特別の受験勉強もした風には見えなかったのに東大へ。東京の10年間には物語がありそうですが、長野へ帰ってからはテレビに出たり、本を書いたり活躍。こんな才能にあやかりたいものです。

主な著書  
 信州そばの話(銀河書房)  
 おやし焼餅の話(銀河書房)  
 修那羅の石神仏(銀河書房)  
 ブルーガイド軽井沢・千曲川の旅(実業之日本社)  
 真田一族のふるさと(信濃毎日新聞社=共著)  
 武田信玄(信濃毎日新聞社=共著)  
 ムラのきた道(信毎書籍出版センター)  
 信州そば100選(川辺書林=編)  
 ブルーガイド センチメンタルジャーニー信州(実業之日本社)  
 郷愁の味脱線話(自刊)  
 信州そば紀行(信濃毎日新聞社)ほか

### 職場訪問

同窓生の皆さんがどんな職場でお仕事をされているか、ちょっとのぞいてみました。  
**信州大学 旭キャンパスの巻**



大卒後この椅子まで29年!!

何ったのは、医学部の小児科の小池健一さん(六七期)。この春、目出度く小児科教授になりました。教授選と同時に「白い巨塔」がテレビ放送されていたため、皆さんには「あんな事つてあるんだらうか?」と思われるようですが、「少なくとも今はあいうことはありません」とのことです。医学部教授を目指している同窓生の方へ安心下さい。

担当した患者が三十何年たつて、結婚式に呼んでくれた時の喜び、未来ある子供たちの医療に携わる小児科医ならではの喜びと難しさを話していただきました。

小池さん達のベラルーシでの医療サポートが「豊饒なる荒地に」のタイトルでNBS特別番組として放送されましたが、小池さんは分業が進んだ日本から現地に飛んで、政府との交渉から手術準備まですべてを自分でし、医療の原点を若手医師に伝えたようです。病気を見る科学者の目と患者さんを治りたい気持ちにさせる人間性の両方の大切さを強調されていました。(次頁に続く)

# 上田高校男女共学事始めのこと

林庄平 (五二期)



昭和二六年四月(1951)に上田松尾高校の校史上画期的な一頁がスタートした事になる。戦後の男女平等思想の実現段階として、それまで男子校であった本校に、四百人の入学生中十二人の女子入学生を迎え入れた。一つのテストケースでもあった。

県内では既に長野北高校、松本深志高校、諏訪清陵高校に先行事例があった訳だが、当時の中沢睦次郎校長、清水次郎教頭、茂任定次教務主任、高柳厚学年主任等第一線首脳部は受け入れ成功のために、大変な苦勞をされたことであろう。多感な思春期の若者でもある高校生を男女共学制を有意義に進めることは、軽がるしい事では無かつたと思う。

たまたま私は、十二人中の六人の女生徒と同クラスとなった。中学では男女共学は馴れていたが、そう違和感はなかったが、教職陣は何かと気遣いがあったと思う。限られた優秀な諸嬢と同じクラスで学ぶ幸運を享受した事になる。級担任には年を重ねられたベテランの、高柳厚、荒井久作の両先生が配された。上級生たちにも何らかの形で、刺激があったと思う。

## ホーチミン市を訪ねて

支部長 小林茂昭 (五四期)

去る八月、ベトナムの脳外科支援ということで、単身ホーチミン市(ホー市)を数日間訪ねた。まず成田空港からホー市まで六時間の直行便があり、時差も二時間で体感的にもきつくない。

かつてサイゴン市と呼ばれたホー市は、北部の首都ハノイ市に対して南部の商都で、人口四五〇万のベトナム一の大都市である。

まず驚くのは、街をうんかの如く街を走るモーターバイクの群れである。二、三人乗りも多くしかも誰もヘルメットを着用していない。空気汚染がひどく女性の多くはマスクをして運転している。しかしながら、街の熱気と人々の逞しさを十分感じた。ホー市滞在中、ベトナム脳神経外科学会会長から頼まれて、頭部外傷撲滅ヘルメット着用キャンペーンのため、テレビ出演と、新聞取材に協力する羽目になった。

人々は明るく、物価は安い。タクシーも200円もあればかなりのところまでいける。生活レベルは未だ高くないが、第二次大戦後、対仏、対米の二度にわたる強国との戦争で屈しなかったという自負が人々の心にあるように感じられた。

近郊には、旧ベトナム地下基地がジャングルのなかにあり、狭い地下トンネルが縦横にのび深さは5層に達し、当時は総延長数十キロにもわたったというから驚く。トンネルは狭く、太った米兵は通れない。地下司令室、手術室もあった。更にジャングルいたるところに落とし穴があり、米兵は近付けなかつたという。Have not 民族のしぶとさを感じた。メコン川は河口に近いためか、黄褐色



る意気込みで女性先輩者としての自負をもつて活躍されている事に敬意を表したい。共学の実績も上がり、目下は六対四位になっていることが、同窓会報で知らされ、今昔の感を禁じえない。私事では、昭和二十九年(1954)に本校を卒業し、東京の大学生生活を終え、昭和四四年(1959)諏訪の地に職を得て、以来平成八年(1996)定年退職し若干の臨時職の後、退職者の団体である、厚生年金受給者協会の地域役員を勤めているが、この職が結構忙しく、老化している余裕がなく、社会に尽くす場面と心得て励んでいます。中南信支部の総会には可能な限り出席して、先輩の人格に触れさせて頂き、現役の後輩諸氏の活躍に刺激を受けて、若い力を頂いているこの頃です。



の水がゆったりと流れる大河で、長い間住民に多くの恵みを与えてきた。メコン川からの魚類が新鮮でおいしかった。また、米の産地でありライスベーパーを使つての数々の料理がおいしかった。

今が、ベトナムらしさに接する観光のチャンスで、もう数年もすると、市場化が進んだばかりのアジアの都市と同じようになってしまふであろう。



奥様(染谷)がAGSのT  
上田高校中南信支部同窓会の総会・講演会には、何度か出席させてもらっております。

今まで聴いた講演には「チエルノブイリ」あり「日本論」あり、「広告業界の不思議」ありで、社会の第一線で活躍して来られた卒業生のお話は、ダイナミックで心に残る内容です。

同窓会の発展をお祈りいたします。  
小林秀子

### 総会会場までの地図



(職場訪問の続き)  
教授になってからは、長野県医療全般を考へることが必要になり、特に最近の医療研修体制の変更に、信大卒業生の地元在留率が低下していることから、長野県全体が医師不足になるのではないかと心配されてきました。

次にお邪魔したのが、なんと学長室。この主も同窓生なのです！小池さんと同じ小児科医から医学部長を経て、昨年学長に就任された小宮山淳さん(五六期)がその主です。小宮山さんは上田松尾高校最後の卒業生で、その年は甲子園初出場を始め、スポーツ各線で全国大会出場が目白押しでした。受験では東大合格者数二十名で県下一位(深志と同数)等、まさに文武両道のピークを経験されています。当時の羽生功校長は黄金時代の幕開けたれ」と、翌年の入学式で述べたほどです。小宮山さんは、今でも現役で野球を楽しまれるとともに、高校野球の応援には必ず駆けつけるとのこと。学生時代の思い出は、なんと言っても応援練習だったとのこと。ほんとに毎日クラスでソフトボールをしたこと、バッテリーを組んでいた倉島さん(甲子園出場捕手)が明大経由でプロ野球(スワローズ)巨人に行つたこと、真田からの通学ではわざわざ途中で下りて染谷の生徒を意識した。

## 五年間の英国生活

宝橋詰加奈子 (八一期)



高校生活の三年間はスポーツ・勉強共に地味でバツとしない、あまり取り柄の無い生徒だったと思います。それでも、英語の授業だけは好きでした。卒業後は外大に進学、県内企業に就職、結婚。そんな中、夫の英国赴任が決定。ワクワクしたのは当の夫よりも私でした。結局一九九五年から、二千年までの約五年半の英国生活を体験しました。

英国の話になると何故か「紳士の国なんですよ」と聞かれます。その度にどう答えたらいのか迷うのですが、私なりに思い当たるのはマナーの良さです。お店、トイレ、どこでもとにかく列を作つて順番を待つ。我先に群がる光景は見たことがありませんでした。大きなショッピングセンターに突然「テロ予告があったので至急センター外へ移動するよう」とのアナウンスがあった時ですら(結局いたずら電話だったのですが)、かなりの人々がいたにもかかわらず、シーンと静まり返り、整然と順番に屋外へ退去しました。ドアを閉めるときは必ず後から人が来ないか確認し、荷物を持っていたり高齢者・ベビーカーや子供連れの場合は、出入りが終わるまでドアを押さえていてくれます。私の経験では、とてもマナーをわきまえているとは思えない風貌の若者までがマナーを守っていました。

次に出産について。これはすばらしい経験でした。定期検診は全て助産婦が

ながら下駄を鳴らして通つたことなどをお話いただきました。

学生一万一千人・教員一千人、八学部が全県に分散した総合大学の長として、大学が法人化される激動の時期にリーダーシップを要求される学長になった事になります。

個性化と高度化を目指し、環境マイノリティの醸成と、各キャンパスが分散していることを強みにした地域貢献で、地方大学のフロントランナーとなるべく、現場で話し合いを重視し、「学長懇談会」や、学生との「学長オフィスアワー」でコミュニケーションを図っているそうです。

最近信州大学へ入学する上田高校出身者比率が下がっていることを憂慮されていました。



この椅子の座りごこちは？

競争時代の大学をどう発展させるか、長い間文科科学省の指導で動いてきた大きな組織の意識をどう変えるか、学長のご苦労は続きますが、「菅谷松本市長はじめ各方面で活躍されている同窓生が多く、色々なところでお目にかかる。誤解があつてはいけないが、高校の同窓生同士はやりやすいところも多いと思う。各位の益々の活躍を期待したい。」とのことでした。

行い、出産も問題が生じない限り医師はやつて来ません。基本的には医療費、出産に関わる費用は全て無料です。出産には必ず立会いが必要(通常はベビーカーの父親)、出産直後にバスタブにつかる、出産直後から常に母子同室、ベビーカーの世話は一切母親がする等、相違点が多いのですが、一連の経験が人間的で暖かく、もう一人産みたいと思うような思い出になりました。

最後に、英国発祥の伝統工芸シュガークラフトについて。文字通りの砂糖細工。ヨーロッパ人がこれほど手間暇かけて細かい作業をすることに驚きました。ギルド主催のコースを終了するために、週一回の講習参加、課題を制作し、植物のルーツと習性を調べるために図書館に通いました。シュガーを通じ心の通じ合う友人が出来たことで私の英国生活は一段充実しました。自分でデザイン・制作したバラのブーケはコンクールで金賞を頂くなどして特に印象に残る作品です。シュガークラフトは大変に繊細で壊れやすいので、二人の子供が小さい今はまだ無理ですが、何年かのうちにまた制作を再開したいと思っています。



松島治郎(三六期)上松町

農水省の勤めの関係で木曾に移って五十余年過ぎ、高齢者と言われながら、年金に感謝して毎日楽しく生きております。

岡田英雄彦(四二期)箕輪町

昨年は星野温泉で卒業以来六十周年を祝う同期会に行ってきました。三十六名集まりました。太平洋クラブ軽井沢リゾートでゴルフを楽しみ、「中学出てから六十年」という文集をいただきました。物故者七十三名、生存者七十八名のうち七十六名が文集に寄稿してくれました。

宮下(赤羽)登(五二期)伊那市

現在、長野県家庭裁判所伊那支部の非常勤で、保護司・駐在保護司を務めて十一年を迎えました。少年の更生保護の活動に携わる日々です。いろいろ学ぶことばかり、燃える日々でもありません。上田高校ハンドボールOB会でもゴルフコンペ等を実施しています。伊那・上伊那・駒ヶ根あたりの同窓者で声を掛け合う必要を感じます。

藤澤良彦(五二期)松本市

十月九・十日の二日間、新しい松本市民・芸術館で「全国童謡唱歌サミット松本大会」を開きます。皆が口ずさんだ歌を歌いに来て下さい。

小林俊夫(五六期)松本市

昨年、鹿教湯三才山病院から同系統の厚生連リハビリテーションセンター鹿教湯病院へ転任しました。

星野伸夫(六四期)岡谷市

同窓会の仲間の皆様が頑張っているしやる近況を読ませて頂き、大変励みになりました。

吉村哲郎(六六期)松本市・東京都

東京単身赴任八年になりました。昨年同級会の開催の折、高校の正門を訪れ、昔いたずらした看板が健在であることが分かり、安堵しております。



会員短信  
昨年の返信ハガキなどから

山崎(関)良子(七十期)明科町

カインズホーム豊科店の薬局で、たくさんのお客様と接し、毎日人生勉強させて頂いております。家族は皆それぞれ単身生活で、六人家族で四世帯と大変ですが充実しています。

山浦敏(七一期)飯田市・長野市

長野市の全農長野県本部での単身赴任も六年になります。通勤可能な事業所がなくなり、定年まで単身赴任が続きそうです。

池上俊彦(七六期)松本市

先日久しぶりに母校に行きました。女生徒が大変多く驚きました。生徒の気質も変わりました。

齋藤卓也(八四期)下諏訪町

昨年は部活(下諏訪向陽高校卓球部)の県大会で出席できませんでした。今年は上田高校が強いので、県大会での対戦を楽しみにしています。

宮下美保子(九十期)茅野市

東海大第三高校の男子バレー部の監督をしています。土日は遠征又は練習。週五日の平日は大忙し、ゆとりはどこへいったところどころです。めざせ春高、応援よろしくお願いします。

武村洋治肖像画展(九月八日〜十二日)

会場申し込みから六ヶ月、準備に四十五日、開催五日間、私のお祭りは大盛況で無事終了しました。申し込み時、用紙の入場予定数を一〇〇〇人と書いて質問したら「何人でもいいんですよ」と事務所の人は笑って答えていました。

松本美術館を終えて

一四〇〇人余はいました。初日の一人目から最終日の最後の一人まで、人が途切れることはありませんでした。芋を洗う場面はありましたが、人の流れが灯籠流しのように思われ、生涯忘れられない光景となりました。



この人とハイポーズ!



にぎわいの時間



オシャレな時間

文中 似顔絵カット・挿絵 武村洋治

～地区別会員数及び新幹事～(平成16年3月現在)  
昨年の総会で以下の方に新たに地区幹事および幹事をお願いしました。ここに報告いたします。(敬称略)

| 地区    | 会員数  | 地区幹事(期)      |
|-------|------|--------------|
| 松本市   | 161  | —            |
| 塩尻市   | 44   | —            |
| 諏訪地区  | 115  | 林 庄平(52)     |
| 上伊那地区 | 57   | 田中(母袋)瑞穂(58) |
| 下伊那地区 | 43   | 谷道 七郎(50)    |
| 安曇地区  | 81   | 石田 益雄(54)    |
| 木曾地区  | 13   | —            |
| 合計    | 514人 |              |

幹事(女性)林 聖絵(76)